

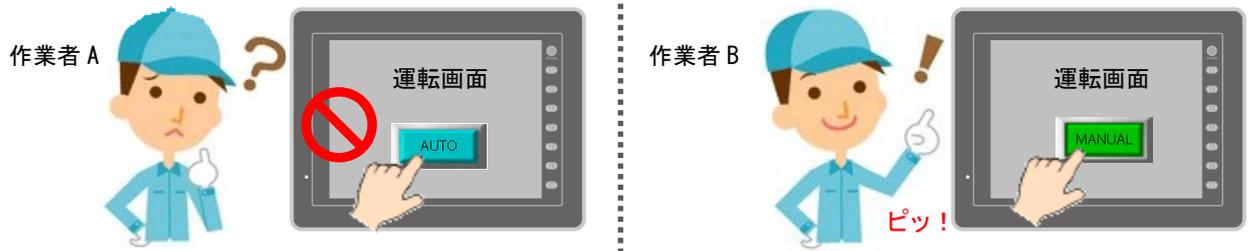


テーマ	スイッチの誤操作防止方法 簡単ガイド (一定時間押した時のみ動作させたい、など)		
該当機種	V8、TELLUS3	No. TI-M-0064	1/4

1. 目的

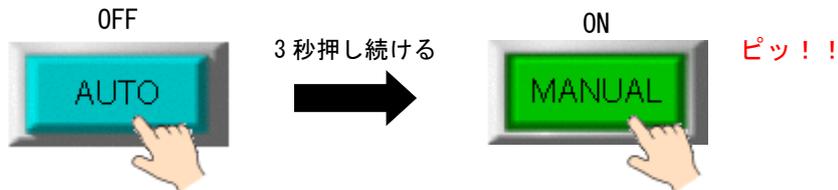
スイッチを誤って押した時にスイッチ機能の実行を防ぎます。

また、特定の作業者のみがスイッチを押せるように、通常はロックしておくこともできます。



- スイッチをある一定時間押し続けることで、スイッチの機能を実行できます。

例：ON デイレイ 3 秒



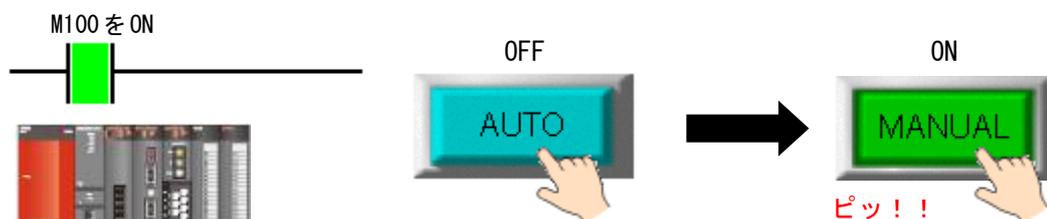
- スイッチ機能を実行する前に、確認ダイアログを表示することができます。

例：メッセージボックスタイプ 0



- インターロックを設定し、設定した条件が成立した場合のみスイッチの機能を実行できます。

例：インターロックメモリ M100



2. 動作環境

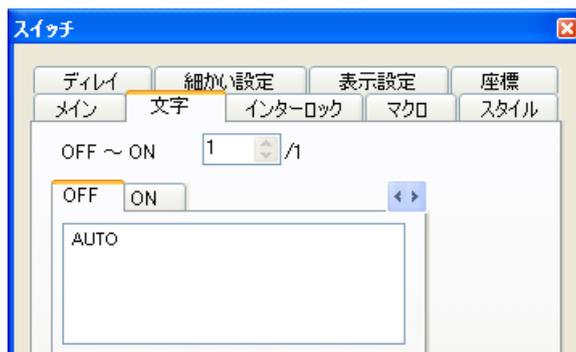
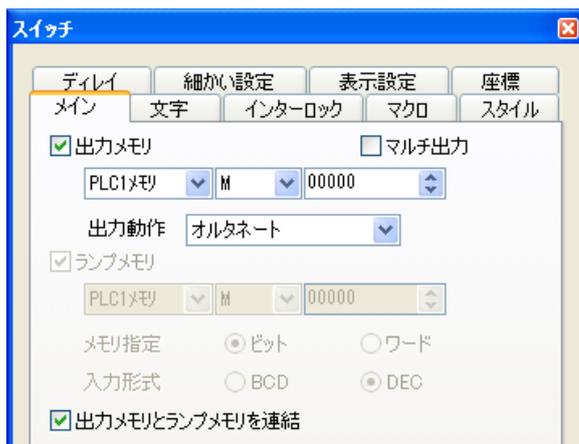
V8 シリーズ、TELLUS3

3. 手順

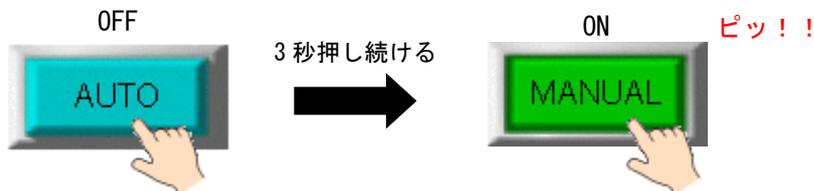
以下のスイッチ設定を例に説明します。

スイッチ OFF 時・・・PLC1 メモリ M0 : OFF、文字 : AUTO

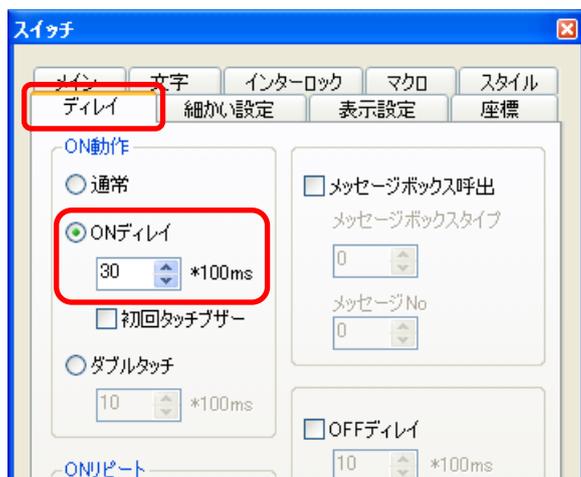
スイッチ ON 時・・・PLC1 メモリ M0 : ON、文字 : MANUAL



3-1. スイッチを3秒長押し後、実行する場合



- ① スイッチをクリックまたはダブルクリックし、アイテムビューを表示します。
- ② [ディレイ] → 「ON デイレイ : 30」(単位 100mSec) を設定します。



【補足】

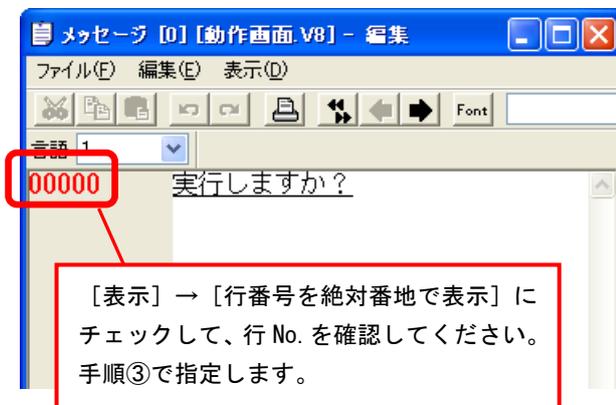
[ダブルタッチ]を使うと、指定時間内にスイッチを2回押すことで実行することができます。

3-2. スイッチを押し、メッセージボックスを表示する場合



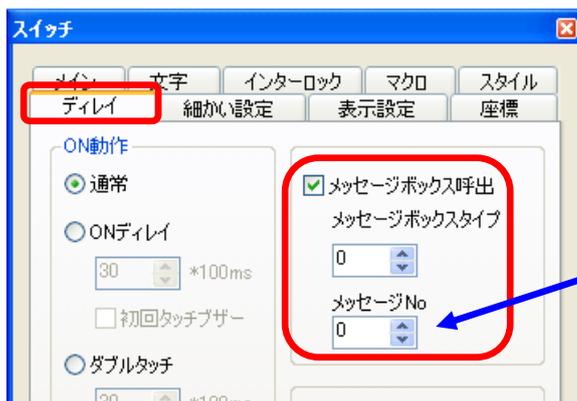
- ① メッセージボックスに表示するメッセージを登録します。[登録項目] → [メッセージ] を表示します。

例：行 No. 0 に登録する場合



1 行登録します。
メッセージボックスには、
最大半角 96 文字（全角 48 文字）表示可能です。
本体では、自動で改行されて表示します。

- ② スイッチをクリックまたはダブルクリックし、アイテムビューを表示します。
③ [ディレイ] → [□メッセージボックス呼出] にチェックし、「メッセージボックスタイプ：0」に設定します。
手順②で登録したメッセージ編集の行 No. を「メッセージ No.」に設定します。



【補足】

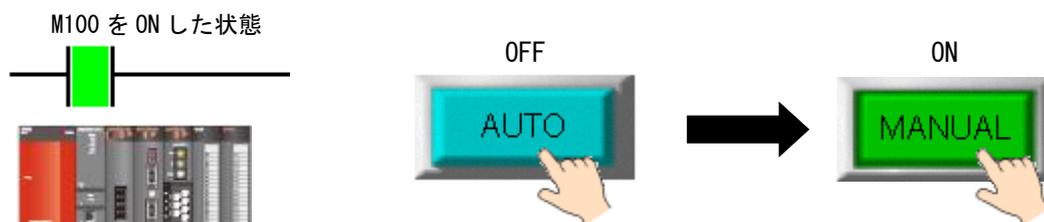
メッセージボックスタイプの違い

「タイプ：0」…「OK」、「キャンセル」スイッチあり

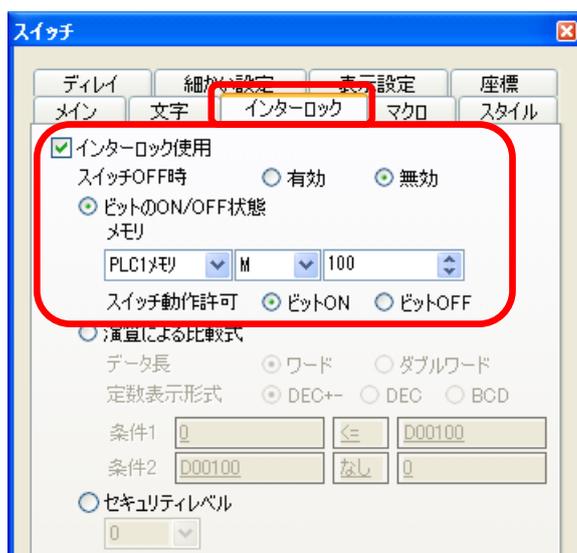
「タイプ：1」…「OK」スイッチのみ

3-3. スイッチのインターロックメモリが ON の時のみ、実行する場合

例：インターロックメモリ M100



- ① スイッチをクリックまたはダブルクリックし、アイテムビューを表示します。
- ② [インターロック] → [□インターロック使用] をチェックし、以下のように設定します。



【補足】

- 「スイッチ OFF 時：有効」の設定は、スイッチから手を離れた時に、条件が成立していないと、OFF 時の処理を行いません。
「出力動作：モーメンタリ/モーメンタリ W」の場合、ON 表示のままになります。
「OFF マクロ」は動作しません。
- 「スイッチ動作許可：ビット OFF」の場合、M100 が OFF 時にスイッチ機能を実行できます。
- 「演算による比較式」を選択すると、ワード指定で条件式を設定することができます。